



凍結による給湯機器の破損(故障)予防のお願い



凍結を予防(その1)

機器は気温が凍結する温度に近くなると、凍結予防ヒーターや循環ポンプの作動などで凍結予防するため、**電源プラグ**を抜かないでください。

給湯機器の器具内の凍結予防ヒーターが、凍結の危険のある気温近くになると**自動的に**作動します。

電源プラグを抜くと作動しないため、**電源プラグは抜かないでください**。(運転スイッチ「入・切」に関係なく凍結予防します。)

※給水・給湯配管や、給水元栓およびふろ配管などの凍結は予防できません。



凍結を予防(その2)

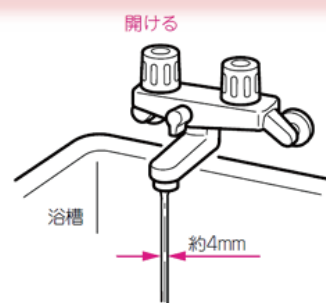
冷え込みが厳しい時は、給水および給湯配管や給水元栓の凍結を防ぐため以下の**通水の処置**をしてください。

機器だけでなく、給水・給湯配管、給水元栓なども同時に凍結予防できます。

<1> リモコンがある場合、運転スイッチを「切」にする。

<2> ガス栓を閉める。

<3> おふろの給湯栓を開いて、少量の水(1分間に約400cc・・・太さ約4mm)を流したままにしておく。



追いだき機能付きふろがまの場合は

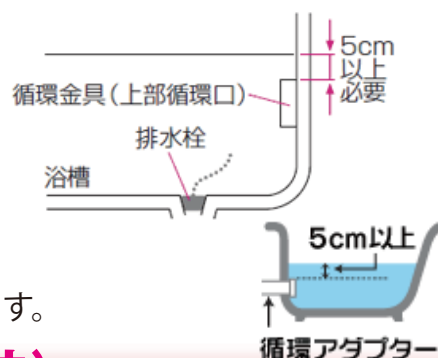
追いだき機能付きふろがまのふろ配管を凍結予防するためには、

浴槽の水を**循環アダプター**上部より**5cm以上**ある状態にしてください。

※ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて、凍結を予防します。

(ポンプが運転する音(ウーンという音)がします)

※水がないとポンプが空運転し、機器から大きな音が発生する場合があります。



凍結してしまったら…(対処法)

運転スイッチを「切」にする。(「入」にしていると燃焼する場合があります)

気温の上昇により自然に解凍するまで待つことをおすすめします。

給湯栓から水が出るようになって、機器や配管から水漏れなどがないかよくご確認のうえ、使用してください。

すぐにお湯を使いたい場合は、以下の方法をお試しください

1. 運転スイッチ「切」にし、台所などの**給湯栓**を少し開けておく。
2. ガス栓を閉める。
3. 給湯機器本体の給水元栓を回してみる(閉めてみる)。



給湯元栓が回るのに水が出ない場合

給水元栓以外が凍結しているため、給水元栓を必ず閉め、気温の上昇により自然に解凍するのを待つか、当社窓口にご連絡ください。

給湯元栓凍結して回らない場合

- <1> タオルを給水元栓のまわりに巻く
- <2> 人肌程度(30~40℃)のぬるま湯を給水元栓に巻いたタオルにゆっくりかける。
- <3> 給水元栓が回る(水が流れる音がする)ようになったら、1.で開けておいた家の中の給湯栓を閉める。
- <4> タオルを外し、給水元栓のまわりについた水を乾いた布で拭き取る。

